宝の海から
白浜で出会った生きものたち ㊺

京都大学助教授 久保田 信（京都大学瀬戸臨海実験所）

深海のオガワコマッコウ漂着 白浜で18頭目のクジラ類

漂着記録 国内では20例

大型台風16号の接近が懸念される8月26日の早朝、番所崎先端の外洋に面した浜に横たわっているクジラを、院生の小林亜玲さんが発見した。その知らせを受けて、田名瀬英朋さんや院生の河村真理子さんらとともに現場に駆けつけた。

この個体は人間より多少大きかった。頭部のすんなりとがった形状とともに、背びれが比較的幅広くて先端がとがり、その後縁がくぼんでいるところからみて、オガワコマッコウのように思えた。

おちょぼ口で目が小さく、マッコウクジラをずっと小さくしたような形をしていた。既に死亡しており、黒光りのする体表にはわずかなかすり傷を残してひどい外傷は見当たらなかった。寄生虫もいないようだ。死因は外見からは分からない。頭部の頂部をよく見ると、中央より左にかたよって開いている鼻（噴気孔）からあわが出ていた。体内でガスがわきはじめているようだ。

コマッコウ属は世界で同種とコマッコウとオガワコマッコウのたった2種しかいない。オガワという名前は、日本のクジラ類研究者の小川鼎三博士に献名されたものだ。両種はよく似ており、1966年まで同種扱いされていた経歴がある。

コマッコウは、背びれが小さく、解剖学的には、のどに短い不規則な1～2本の溝のない識別点があるとのことだ。

写真でわかるように、頭部の形状に加えて、目のすぐ後方にある白い模様（偽鰓＝ぎさい、かっこ斑とも呼ばれる）、背びれの形、口のつき方、下あごにある鋭くとがった歯などで、一見すると、イルカよりもむしろサメに似ている。しかし、なんといっても尾びれはクジラ・イルカ類特有の海表面に平行して伸びている。

◇

その日には、県と白浜町にも連絡が取れて、DNA用の肉片サンプルをもらって切り取る許可をもらった。まず、金切のこぎりで背びれを切り取ろうとしたが、相当硬く手間取った。だが、磨き上げた田名瀬英朋さん愛用の出刃包丁が、肉片も含めて切り取りに威力を発揮した。肉片などを切り取っても腐敗臭はほとんどなかった。下あごも切り取って歯をできるだけ多く回収した。これらは氷点下80度で冷凍保存している。

今回、国立科学博物館に勤務するクジラ類専門家である山田格博士から同定やさまざまな助言があった。また、山田博士らが作成された、この数百年間の漂着や漁獲中にかかったクジラ類のデータをまとめたインターネットサイトにアクセスさせて頂くことで、オガワコマッコウやコマッコウがこれまであまり記録がないことが判明した。以上の知見を踏まえて、豊富な画像を含めた本漂着標本の記録を残すため、原稿にまとめて漂着物学会誌（第2巻）に投稿した。

◇

連載19～21回で紹介したように、これまで白浜町には、過去50年ほどの期間中に3科8属8種17頭のクジラ・イルカ類の漂着・迷入記録があった。今回の新しい発見によってこの記録は更新され、今回、種の確定が完ぺきではないが、4科9属9種18頭となった。これまでオガワコマッコウは、わが国での漂着記録として、太平洋側では千葉県銚子市から沖縄県石垣市まで、日本海側では石川県と福岡県の、全部で20例ほどしかない。

オガワコマッコウは、世界中の熱帯から温帯海域にかけて生息しているとされるが、野外での観察例は少ない。この理由は、外洋性で、大陸棚縁円部を越えた300㍍くらいまでの深海に生息することによる。加えて、一般的にクジラ類は海面上で浮かんだまま前進するのだが、本種は、ゆっくりと慎重に上がってきたらすぐに姿を消す性質があることにもよる。

オガワコマッコウは、海面より飛び跳ね上がる行動もおこすこともあるそうで、尾びれから落ちたり、腹から着水してりするシーンが目撃されたこともある。他にも興味深い行動が知られていて、コマッコウ類2種とも、イカ墨のように、驚いた時にふんをばらまいて煙幕をはるという。また、腸から赤褐色の液を排出して姿をくらまして逃亡する技をもつ。

社会行動としては、群れを作る場合でも小さな群れで、10頭以下らしい。普通は単独行動をするという。体長が2・1～2・2㍍で性成熟するので、今回の個体の2・4㍍は成体である。だが、最大2・7㍍の記録には及ばなかった。最大体重は210㌔までだから今回の個体は200㌔くらいあるのかもしれない。約9カ月の妊娠期間の後に、体長1㍍ほどの新生児を一頭産み、しばらく授乳して育てるらしい。

食物はマッコウクジラと同様ではあるが、小形のイカ類や魚類、エビ類を捕らえているようだ。

まだまだ生活史は謎の部分が多いこの類なので、今後も、本種をはじめ他のクジラやイルカ類であっても、いろいろな目撃例などを知らせてもらいたい。

オガワコマッコウと推察される個体の頭部。小さな目とその後方には白色の偽鰓（ぎさい＝かっこ斑）がある。口は短く、細い

オガワコマッコウと推察される個体の腹面

番所崎先端の浜に8月26日に漂着したオガワコマッコウと推察される打ち上げ個体の全身と、発見者の瀬戸臨海実験所院生の小林亜玲さん